

学校の活動シリーズ-1 藤岡市立美九里東小学校「自然環境クラブ」



いろいろな自然にふれて、からだで感じる

自然環境クラブの活動は今年で6年目になる。活動日は木曜日の5、6校時で年間に24時間活動しているんだ。今回の川の水質調査のほかにも、さまざまな活動をしているので、今までの例をいくつかしょうかいするね。

自然環境を知る それは地球の未来を考えること

「モンシロチョウはむかし日本にはいなかった(キヤベツといっしょに卵の状態を外国からわたってきたんだって)」「チョウのオスとメスにはおいて区別できる(オスにだけにおいがついている)」「チョウは黄色がよく見える(花に花粉がついて)



生きものと自然は深くつながっていることを知ったピオトープ見学

「ピオトープ」とは、いろいろな生きものが暮らせる場所や環境の中で、自然にできた場所だけではなく、人工的につくったものもあるんだよ。ここでは、薬田を使わずに自然の浄化力を使って下水をきれいにしているピオトープをつくっているんだ。水、植物、魚、昆虫などの関係や秘められた力を知ることができ、自然のいとなみのすばらしさに感動したね。

毎年、前橋市にある群馬工業高等専門学校(こうとうがく)の屋上につくられたピオトープを見学している。

「ア、だんだんピンクになっていくよ。ほとんどのバクテリアはピンク色か、うすいピンク色に変化するんだ。」「あ、だんだんピンクになっていくよ。ほとんどのバクテリアはピンク色か、うすいピンク色に変化するんだ。」



活動のようすをまとめることも大切な勉強

「川の護岸工事を見る」自然を守る人たちの仕事を勉強するために、コンクリートの護岸工事と、石や砂利を使ったより自然に近い多自然型工法による護岸工事のちがいを学んだ。

調査結果を発表 クラブ活動で学んだり調べたりしたことは、あとでまとめて発表しているんだ。みんな、自然環境と生きものとのつながりを知ることにより、自然の大切さや自然の力をあらためて実感していたね。



川の中は冷たくて気持ちがいい! 生きものもいっぱいいて大よこび!

「サワガニ、オタマジャクシ、ドジョウ、スズメエビもいるよー!」「うちにはカゲロウ、ヤゴ、ガガンボ、カワゲラがいたぞー!」それらはほとんどがきれいな水にすんでいる生きものだよ。調べたあとはみんな川へもどしたんだよ。



自然環境クラブ集合! (後列左はしが木村先生、右はしが黒沢校長先生、右から2番目が掛川さん)

「自然環境クラブ」の子どもたちは今回の観察体験でどんなことを学んだんだろう。掛川さんと木村先生に聞いてみた。「予想以上の種類の川の生きものが観察でき、水生生物の多様性を知ることができたと思います」と掛川さん。木村先生は「今回の体験で水環境の大切さや川と人の関係が実感できたのでは」と話してくれた。いろいろな生きものにふれることで、川のゆたかさ、そして川の自然保護の大切さを学んだようだね。

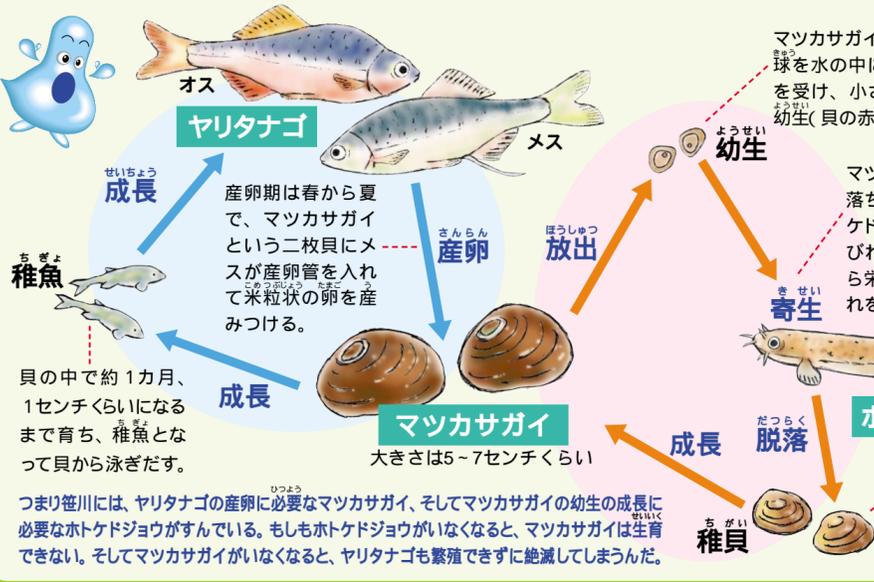
「川の子ども新聞」では今号から、川や自然に関する活動をしている県内の小・中学校をしょうかいしていくことになったんだ。第1回目は藤岡市立美九里東小学校の「自然環境クラブ」。川を中心に、さまざまな体験をおして自然の大切さ、ゆたかさを学んでいくユニークな活動をしているんだよ。

「自然環境クラブ」は総合学習のひとつで、4年生から6年生までの生徒がメンバー。クラブ設立のきっかけは、県内で藤岡市の笹川だけに生息している魚「ヤリタナゴ」を学校で飼育することになったことなんだ(詳しくは下の「ヤリタナゴの飼育と観察」を見てね)。この魚との出会いをおして、生きものと自然環境との関係について、いろいろな活動をしているんだよ。今回は、市内を流れる鮎川で

「自然環境クラブ」の子どもたちは今回の観察体験でどんなことを学んだんだろう。掛川さんと木村先生に聞いてみた。「予想以上の種類の川の生きものが観察でき、水生生物の多様性を知ることができたと思います」と掛川さん。木村先生は「今回の体験で水環境の大切さや川と人の関係が実感できたのでは」と話してくれた。いろいろな生きものにふれることで、川のゆたかさ、そして川の自然保護の大切さを学んだようだね。

「自然環境クラブ」の子どもたちは今回の観察体験でどんなことを学んだんだろう。掛川さんと木村先生に聞いてみた。「予想以上の種類の川の生きものが観察でき、水生生物の多様性を知ることができたと思います」と掛川さん。木村先生は「今回の体験で水環境の大切さや川と人の関係が実感できたのでは」と話してくれた。いろいろな生きものにふれることで、川のゆたかさ、そして川の自然保護の大切さを学んだようだね。

自然環境クラブは、2000年度からヤリタナゴの飼育と観察を続けている。ヤリタナゴは絶滅のおそれのある魚で群馬県版レッドデータブックの絶滅危惧種1類と藤岡市の天然記念物に指定されているんだ。美九里東小で飼育しているヤリタナゴは水産試験場で繁殖に成功したもので、特別に飼育が認められている。水槽で飼育しはじめたばかりのころは、オス、メスの区別がつかなかったんだけど、春から夏にかけて、からだに赤い線が現れてきてとてもきれいな色に変化していったよ。その後、オスは尻ビレに赤い婚姻色が出て、メスは産卵管が伸びはじめ、ちがいがはっきりしてきたんだ。感動だね。みんな最初は、名前も知らなかった魚だけど、毎日のように見ているのがわかって、かわいくなっちゃうようになった。飼育するのは、エサのやりすぎで水槽の水がよこねいようにすること。2、3年したら笹川に放してあげるそうなんだ。



協力: ヤリタナゴ調査会

川の子ども新聞

学校の活動 シリーズ 1

藤岡市立美九里東小学校「川はみんなの宝箱」

